

細江カトリック教会だより

1・2月号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

奉獻生活に召された人々のために祈る

正月が近づいて、新型コロナウイルスの感染拡大があるにも拘わらず、多くのベトナム人の人々は様々な準備を行って、幸福に満ちた新年を迎えることができるよう願っております。さらに、カトリックの信者さんたちは心をも清めるためにゆるしの秘跡を受ける人が多かったです。



今年、ベトナムの教会では、大きな事件が起きました。それは、旧正月の直前日(2022年1月29日)に、ある若い司祭(ヨセフ・タン 41歳)が人々にゆるしの秘跡を与えている間に殺されてしまったという事件です。

彼はドミニコ修道会の司祭であり、3年前司祭叙階の恵みを受けて、ベトナムにある少数民族のところに派遣されて、貧しい人々のために働いていました。彼は熱心な宣教師であり、いつもニコニコして、柔和な心を持ち、特に子供たちを非常に愛していると言われているそうです。しかし、コントゥム教区(Kon Tum) ダックモット小教区(Đăk Môt) サロング小聖堂(Sa Loong)の中で、主イエスの代表者として、最も重要な使命を果たすときに、すなわち人々の罪を赦しているときに殺されて自分のいのちを主イエスのように捧げました。

ベトナムの中では、カトリック教会はあちこちで迫害され、その宣教活動がなかなかまだ困難のような気がします。次のような言葉が頭の中で浮かんできました。「一粒の麦は、

地に落ちて死ななければ、一粒のみである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」(ヨハネ12:24)。すべての司祭や宣教師たちは人々のために最後の息吹まで自分の命を捧げることができますようにお祈りしております。

ところで、2月2日、カトリック教会は「世界奉獻生活の日」を祝います。この日は、教会内と世界全体にいるすべての奉獻生活に召された修道者と修道女、そして多くの奉獻された一般信者の献身を認識する機会となるのです。彼らは、観想的修道会、活動的修道会、そして使徒職の機関に所属し、その生活の選択によって、イエスの救いの使命に全生涯を捧げ、イエスに従おうとします。

2月の間、教皇フランシスコは『教皇による祈りの世界ネットワーク』を通して、「修道者と奉獻生活に召された女性のために」祈るよう呼びかけています。教皇は、「修道女と奉獻された女性がいなければ、教会はどうなってしまおうのでしょうか」と問いかけます。また「私たちは彼女たちなしに教会を理解することはできません。」と。

教皇は、特に貧しい人々や疎外された人々の活動において、これらの女性たちを支えるために祈るよう促しています。さらに、教皇は、彼女たちがカテキスタであれ、神学者であれ、霊的指導者であれ、そのすべての活動において神の愛と慈愛の美を現すことができるよう祈ることも求めています。

自分の召命を忠実に生きることによって、彼女たちは、使徒的な働きにおいてだけでなく、とりわけその奉獻生活の証しを通して、神のいつくしみを知らしめ続けるのです。従って、今月、細江教会におられるシスターたちのために特にお祈りしましょう。

ディン 神父

洗礼を受けられた方の紹介



2021年12月24日

この日、受洗されたマリア松原香さん(中央)神父さまの指導のもと、主の降誕の夜半のミサの中で洗礼を受けられました。細江教会共同体の一人として、一緒に『神の愛』を実践していきましょう。松原さんは中央地区に入ります。教会の皆さま、地区の皆さま、よろしくお願ひします。

*写真は作道神父さまの右隣が松原さん、弓長さん、代母の林妙子さん、小さい姉妹会の皆さまと。



カテキスタ養成研修を受講して

2泊3日を8回、2年間のコースですが、私たち第2期生6名は、コロナ禍のため、3年かかりました。

私自身の信仰生活は、決してほめられたものではありません。暁の星幼稚園での土曜学校(卒園児対象)では、シスター方が東京へ移られた後、バトンタッチされて戸惑っていました。その様な折、この養成研修の機会をいただきました。キリスト教の要理を、司教様はじめ神父様方に、直接教えていただく贅沢な時間を与えられ、他の小教区の信徒の方々と、分かち合いの時間をたっぷりとする研修をさせていただき、感謝でいっぱいです。

私自身のお恵みにとどまらず、カトリック教会や幼稚園に足を運んでくれる人たちに、イエス・キリストの体の一部として、また教会共同体の一人として、神様のいつくしみと愛を伝えられる人になりたいと思っています。信徒の皆さま、まだまだ未熟な私ですが、よろしくお願ひいたします。

テレサ 福永典子



聖書書き写し 祝別 2/4 (金)



*金曜日のミサで聖書の書き写しの祝別が行われました。本来ならば2月6日の日曜日での予定でしたが、日曜日からは非公開ミサでしたのでこの日に祝別されました。

広島教区創立100周年を間近に控えて、第三回教区代表者会議が、去る2月23日無事終了しました。当初の予定は2020年でしたが、コロナ禍のため1年遅れで、第一会期2021年11月23日、第二会期2022年2月23日、いずれもオンライン形式で行われました。



担当者の周到な準備や司会のおかげで、はじめての経験にもかかわらず、150人近い代表者が参加する会議が実にスムーズに進んだことを、まず、感謝しなければなりません。会議は、今後10年に向けて取り組むべき課題として立てられた「福音宣教」、「平和」、「多文化共生」、「協働」、「養成」という5つのテーマと、それに沿って設けられた5つの分科会、また、全体会を中心に展開しました。それぞれのテーマが、各教会現場でどのように扱われているか、どのような課題を抱えているかが、あらかじめアンケートの形で提出され、テーマに合わせて10の提言にまとめられました。

全体会、およびテーマごとの分科会で討議・修正されたこれらの提言をもとに、今年のはじめ、司教教書、『ともに歩むあたたかさのある教会を目指そう』が作成され、第二回会期での討議を経て、最終的な文書が4月に発表される予定です。

どのテーマも、教区にとって、また、小教区にとって喫緊のテーマであり、司祭、修道者、信徒の立場を超えて、代表者としての忌憚のないご意見をうかがうことが出来たのは、貴重な体験でしたが、これを小教区の皆さんに

お伝えし、今後、共通の問題としてどのように取り組んでゆくかが大きな課題です。

たまたま、この時期は、2023年10月開催予定の「第16回世界代表司教会議(シノドス)ーともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教」の準備期間と重なり、今回、フランシスコ教皇の発案により、全世界の教会から信徒の生の意見を吸い上げるという形態がはじめて導入され、そのための場が細江教会にも与えられ、数人の方々と、テーマにそって意見交換できたことも意義深いことでした。

コロナ禍にありながら、こうした会議がもてたことに感謝し、今後のわたしたちの歩みの上に、主の力強い導きをお祈りしたいと思います。

作道 宗三 神父

ベトナム青年の紹介

神父様と皆さん、こんにちは！今さら自己紹介するのは気恥ずかしいのですが私の名前はフィーと申します。



すでに、去年の四月から細江教会の仲間に入れていただいていた顔なじみの方もいらっしゃいますが、それまでは山口教会に通っていました。現在梅光学園大学の学生で、4月に二年生になる予定です(笑い)。僕と目があったら声をかけてください。これからもよろしくお願ひします。

*教会の主日のミサで侍者の奉仕をしてくださっています。ミサの後片付けも手伝ってくれて助かります。おとなしくて優しい青年です、お声をかけてください。

キッチンカーがやって来た～！



子どもとみんな食堂「ロクスひよりやま」とキッチンカー「ロクス号」

1月の主日のミサで、皆さんの善意によって仲間に加わった「ロクス号」をお披露目しながら、ゆず茶などを飲んでもらいました。ベトナムの青年たちの中にも、何かできることがあれば呼んでほしいという青年もいてくれて、とても嬉しかったです。

4月からは、「ロクス号」を使いたいという思いのある方々に使ってもらえるように準備しています。下関の三教会と下関労働教育センターが協力して「出向いていく教会」を実践していくことができたらと思います。皆さんの協力と応援をお願いいたします。また、月の第四金曜日に行っている「ロクスひよりやま」は青年たちがボランティアに来てくれ、キッチンカーの活動と深いところで繋がっている時間です。ぜひお子さん、お孫さんたちが来てくれるように送り出していただけると、それが大きな意味を持つこととなります。ありがとうございます。

中井 淳 神父

共同祈願

＊ウクライナ情勢の安定を願って祈ります。武力によってもたらされる虐殺や破壊の苦しみから人々を守り、勇気をもって対話による平和への道を選択し、実現していくことができますように。

＊ミャンマーの平和を願って祈ります。人々のいのちの尊厳が守られ、共通善が追求されるために、武力に頼るのではなく、互いの立場を理解し協力し合う態度を持って、一日も早く社会の秩序を回復していくことができますように。



† 帰天 2020年1月

・1/28 マリア・クリスティーナ

末永ヤス子さま 95歳

神さまのもとで安らかに。

編集後記

・ウクライナ国の平和を祈ります。

今ここにあるいのちの危機を思うと心が痛みます。この侵攻が一日も早く終り、平和が実現しますように…。

・オミロン株のコロナウイルス、、、ステルス変異株、、、何とか何とか…嫌になりますね～。どうにもできないことが多くて、不満がいっぱいですね。気を持ち直して。

・ミサに参加することが不安と思われる方は、平日も教会の聖堂は開いていますので、ご聖体訪問も黙想もできます。

センター2階の図書室には、教皇さまの講話集等や新刊も置いてありますのでご利用ください。

・細江教会では、特にコロナ禍で生活が困窮している外国人留学生や就労者への物資等の支援の用意があります。遠慮なく申し出てください。また、皆さまのご支援をお願いします。

何でも相談受付中…細江教会のディン神父、労働教育センター中井神父、教会総務(近藤)までご連絡ください。